

(9) 中国



中国地域では、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

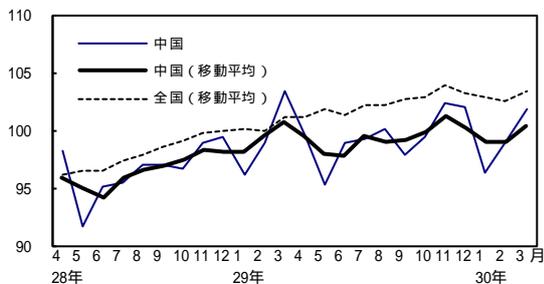
	今回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>	<u>緩やかな回復基調</u>	
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、 <u>足踏み</u>	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期には、輸送機械は、一部車種の生産が増え堅調なものの、軽乗用車等が減少した。化学は、合成ゴム等が減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が減少したものの、おおむね横ばいとなった。鉄鋼は、銑鉄铸件等が減少した。電子部品・デバイスは、光電変換素子等が減少したものの、おおむね横ばいとなった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)

(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	23.5	0.5	2.6	8.5	2.8	8.6
化学	16.4	8.5	2.2	2.3	1.3	9.7
はん用・生産用・業務用機械	11.2	0.2	2.2	6.1	8.5	1.4
鉄鋼	7.7	3.2	1.8	4.9	1.0	1.2
電子部品・デバイス	7.1	4.8	1.3	8.9	9.6	12.5
鉱工業	100	2.2	2.3	5.5	2.6	2.9

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、中国の最新月は速報値。

2. 全国及び中国の大線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

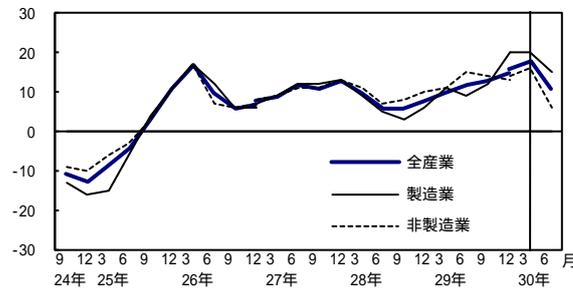
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(9) 中国

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

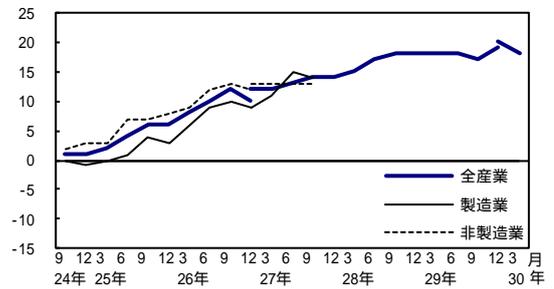
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



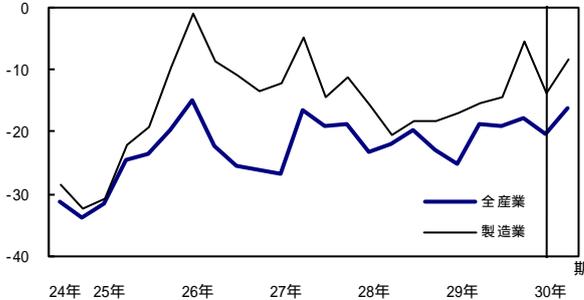
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]

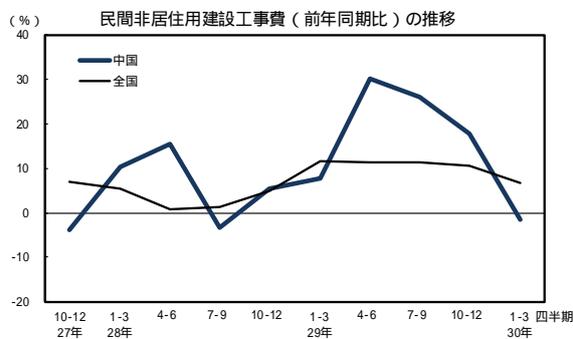


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「年度始めで人の動きは活発になっているが、購買意欲はそれほど高くなく、客の財布のひもは固い(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて減少している。



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績見込み	30年度計画
全産業	7.7 (10.6)	5.4
製造業	10.4 (6.4)	7.8
非製造業	3.6 (16.4)	1.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.3%増、2月は同0.4%増、3月は同0.7%減となった。

百貨店・スーパー販売額

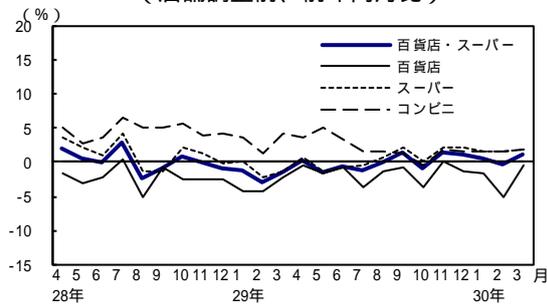
百貨店は、1月は、中旬以降の寒波により来店客数が減少し前年を下回った。2月は、厳しい寒さと冬季オリンピックの影響により客数が減少し、前年を下回った。3月は、婦人服や家庭用品、呉服やハンドバッグのほか、高額品の動きが鈍く前年を下回った。

スーパーは、1 - 3月期は、飲食料品やオーガニック化粧品が好調であったことなどから全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「今年に入って自社だけでなく業界全体の売上が低下している (自動車備品販売店)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



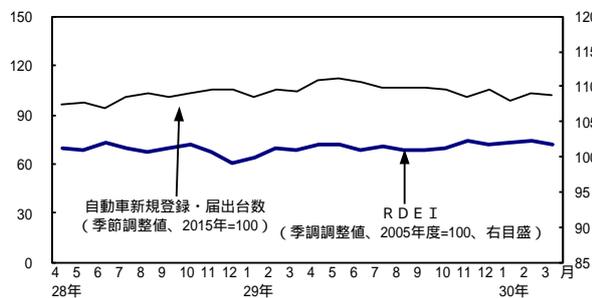
	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.3	0.3	0.4	0.7
百貨店・スーパー(*2)	0.5	0.6	0.3	1.2
百貨店(*2)	2.2	1.5	5.1	0.5
スーパー(*2)	1.7	1.5	1.5	1.9
コンビニ(*2)	1.7	1.6	1.5	2.0
乗用車(*3)	2.9	1.6	2.6	3.8
(季節調整値)(*3)	2.6	5.9	3.8	0.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

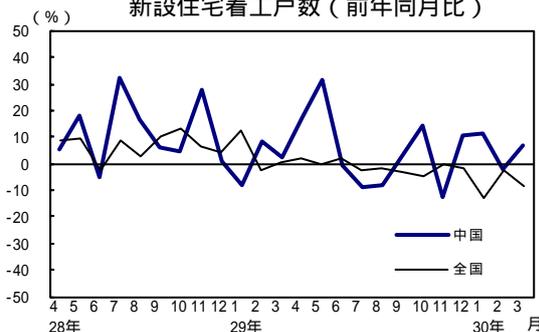


(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

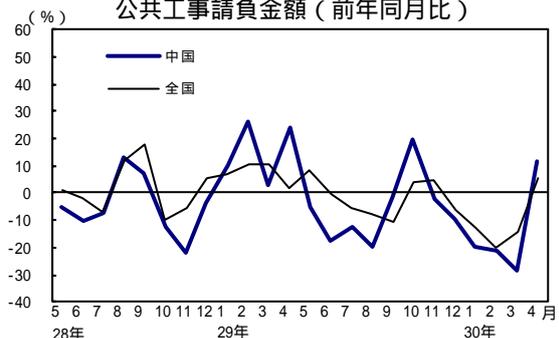
貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)



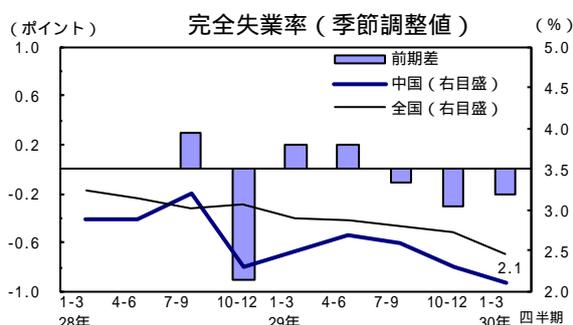
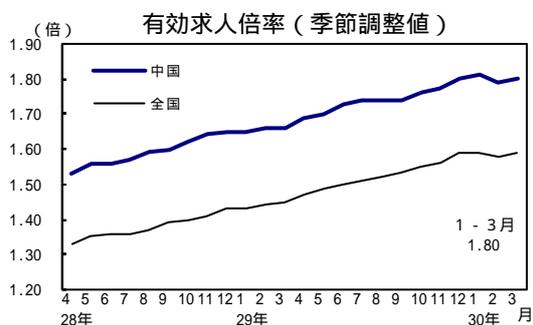
(9) 中国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[雇用関連(現状)]

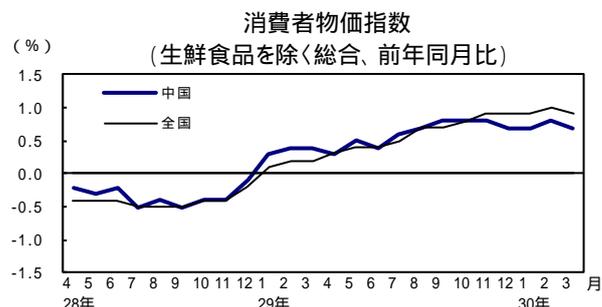
「新規求人は前年に比べ減少しているが、正社員求人は増加傾向にある(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	80	66	92	88	27
(前年比)	11.1	29.0	24.3	5.4	12.5
負債総額	85	135	323	128	44
(前年比)	41.2	10.7	43.8	77.4	22.2



景気ウォッチャー調査(季節調整値)

